

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2012～2014

課題番号：24683020

研究課題名(和文)多重自動性モデルに基づく意識と無意識の制御

研究課題名(英文)Multiple automaticity model of conscious and unconscious control

研究代表者

及川 昌典(Oikawa, Masanori)

同志社大学・心理学部・准教授

研究者番号：40580741

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本、アメリカ、イスラエルの研究者たちの協力のもと、医療選択場面、育児場面、対人認知場面など、日常の自己制御場面における意識と無意識の働きを検討する実験が行われた。これまでの研究では、意識されない心の働きはすべて無意識とひとくりにされてきたが、本研究では、多重自動性モデルの想定に基づき、生得的な自動性と獲得された自動性という2つの自動性を区別し、日常の自己制御場面においてその比較を行った。生得的な自動性は、意識的にアクセス可能な文脈情報に影響されない頑健な特徴を持ち、獲得された自動性は意識的にアクセス可能な文脈情報の変化に柔軟に対応する性質を持つことが見出された。

研究成果の概要(英文)：Cross-cultural studies of conscious and unconscious operations of self-regulation in medical, child-care and interpersonal settings were conducted in Japan, the United States, and Israel. The line of studies shed light on often neglected distinctions between universal and cultural components of unconscious processes. By comparing their roles in numerous self-regulatory settings, it was found that universal components of automaticity are fixed and less susceptible to consciously accessible contextual information, whereas as cultural components of automaticity are malleable and more susceptible to changes in conscious construal of contextual information.

研究分野：社会心理学

キーワード：意識 無意識 自己制御 自動性 社会的認知 社会心理学 国際情報交換 多国籍

### 1. 研究開始当初の背景

社会心理学研究の伝統的な立場では、複雑な人間の認知、感情、行動の背後には、意識を伴う心的過程の働きが中心的な役割を果たしているものと暗黙に想定されてきた。しかし、近年の研究の進展によって、このような伝統的な立場には変化が生じてきている。

自動性研究と呼ばれる一連の研究では、意識的過程(しばしば統制性とも呼ばれる)に加えて、非意識的過程(しばしば自動性とも呼ばれる)の働きが注目され、これらの二つの心的過程の働きから人間の思考や感情や行動が説明されるようになってきている。

### 2. 研究の目的

本研究では、いわゆる無意識的な過程として、これまでの研究においてはひとくくりに扱われてきた複数の心理過程の自動性を区別する新たなモデルを提案し、その妥当性を検証する一連の研究を行うことにより、以下の4つの問題を検討することを目的とした。

(1) 多重自動性モデルを提案し、これまでの研究に散見された知見の混乱や理論間の対立を整合的に説明する。

(2) 種類の異なる自動性を区別する新たな測定法・研究パラダイムを開発する。

(3) 種類の異なる自動性の特徴について、異なる文化圏で比較検討する。

(4) 異なる自動的プロセスの分業について、実証的に検討する。

### 3. 研究の方法

(1) 日本、アメリカ、イスラエルの研究者たちの協力のもと、医療選択場面、育児場面、対人認知場面など、日常の自己制御場面における意識と無意識の働きを検討するための一連の面接、調査、ならびに実験が行われた。

(2) 研究初年度には、日常の自己制御場面における意識と無意識の働きに関するこれまでの文献を精査に分析することで、自動性の種類を区別するモデルの精緻化が行われた。新たに提案された多重自動性モデルに基づき、これまでの自動性研究の知見を、生得的な自動性を扱うものと、獲得された自動性を扱うものとに整理し、知見の混乱の解消が試みられた。

(3) モデルの精緻化と並行して、その妥当性を検証するために、種類の異なる自動性を区別するための潜在指標、また、直接的な比較が可能な顕在指標(感情誤帰属手続きによる直接-間接測定法)の開発が進められた。

(4) 文化依存性/文化独立性(通文化性)の観点から、生得的な自動性と獲得された自

動性の特徴の違いを実証的に検討するために、異なる文化圏(アメリカ、オランダ、イスラエル、日本)における同時測定が実施された。

### 4. 研究成果

(1) 日常の自己制御場面における意識と無意識の働きに関する新たなモデルである、多重自動性モデルが提案された。このような多重自動性モデルの想定に基づき、これまでの自動性研究の知見を、生得的な自動性を扱うものと、獲得された自動性を扱うものとに整理されたことで、先行研究の知見の混乱が解消され、また、性質の異なる自動性の働きに関する新たな仮説が見出された。

(2) このような研究成果を踏まえて、生得的な自動性と獲得された自動性という、2つの自動性を区別し、それらの性質を比較する一連の研究が実施された。その結果、生得的な自動性は、意識的にアクセス可能な文脈情報に影響されない頑健な特徴を持ち、獲得された自動性は意識的にアクセス可能な文脈情報の変化に柔軟に対応する性質を持つことが見出された。

(3) 感情の誤帰属において、生得的な自動性と獲得された自動性を区別するために行われた実験では、生得的な自動性を反映するものと考えられる感情的な刺激に対する反応は意識的な統制を受けつけない特徴を持つが、獲得された自動性を反映するものと考えられる感情の誤帰属の過程は、課題文脈への意識的な注目や注目の質の個人差によって調整される可能性が示唆された。

(4) 対人認知場面における生得的な自動性の通文化妥当性、ならびに獲得された自動性の文化依存性を検討するに行われた実験では、日本とイスラエルのそれぞれの国の女性の顔写真をデジタル合成した平均顔が作成され、それぞれの顔の配分の異なるデジタル・モーフィング画像の印象評定を各国の参加者に求めるオンライン調査が実施された。その結果、多重自動性モデルの想定と整合して、生得的な自動性を反映するものと考えられる魅力評定には通文化妥当性が認められる一方で、獲得された自動性を反映するものと考えられる信頼評定には文化差が認められることが示唆された。

(5) 本研究のために新たに開発された、デジタル・モーフィングやオンライン調査の技術を自動性研究に用いる研究手法は、生得的ならびに獲得された自動性の検証に留まらず、対人認知場面におけるステレオタイプ化や、文化心理学的研究など、新たな研究への応用も期待される。

(6) 医療選択場面における自動的過程に対

する意識的な介入の可能性を検討するために実施された研究では、アメリカの研究者の協力のもと、各国の大学生を対象とした臨床実験が行われた。日本とアメリカのそれぞれの国の参加者は、不快な音声ノイズを呈示された後、その嫌悪感を緩和するための処置を複数のプラセボの中から選択するように求められた。その結果、多重自動性モデルの想定と整合して、生得的な自動性を反映するものとして考えられる嫌悪反応は意識的な統制に左右されない特徴を持つが、獲得された自動性を反映するものとして考えられる効力感に関してはその限りではないことが見出された。

(7)本研究のための開発された、非侵襲の音声嫌悪刺激や、プラセボ治療のパラダイムは、医療行為に伴う複数の要因の効果を分離するための手法として、様々な研究への応用も期待される。

(8)育児場面における自動性の発達を検討するための母子面接・調査が行われた。乳幼児(1歳~5歳)とその母子を対象として、日常における意識的な編集が育児に対する顕在態度ならびに潜在態度に及ぼす影響が検討された。その結果、意識的な編集の効果は、獲得された自動性のみに見られ、生得的自動性には見られないことが見出された。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計7件)

Brown, J.A., Oikawa, M., Rose, J.P., Haight, H. M., Oikawa, H., & Geers, A.L. Choosing across cultures: The effect of choice complexity on treatment outcomes. *Journal of Behavioral Decision Making*, 査読あり、2015

DOI: 10.1002/bdm.1868

及川昌典 教育・社会心理学の研究動向と展望、教育心理学年報、査読あり、2014、53、50-56.

Slepian, M. L., Oikawa, M. & Smyth, J. M. Suppressing thoughts of evaluation while being evaluated. *Journal of Applied Social Psychology*, 査読あり、44、2014、31-39.

DOI: 10.1111/jasp.12197

及川昌典・及川晴 抑制、表出、反芻傾向と感情プライミング効果の関係、社会心理学研究、査読あり、29、1、2013、40-46.

及川昌典 無意識と幸福感 心理学ワールド、査読あり、60、2013、13-16.

Ruys, K. I., Aarts, H., Papies, E. K., Oikawa, M., & Oikawa, H. Perceiving an exclusive cause of affect prevents misattribution. *Consciousness and Cognition*, 査読あり、21、2014、1009-1015.

DOI:10.1016/j.concog.2012.03.002

及川晴・及川昌典 感情抑制が顕在モードと潜在モードに及ぼす影響、社会心理学研究、査読あり、28、2012、24-31.

### 〔学会発表〕(計18件)

Sofer, C., Dotsch, R., Oikawa, M., Oikawa, H., Wigboldus, D., & Todorov, A. Culture-specific face typicality influences perceptions of trustworthiness. *Faces, Bodies and Voices: Multimodal Mechanisms of Person Recognition*, 2015年3月18日, Jerusalem, Israel.

及川昌典 がまんの科学：社会心理学の視点から、日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会主催公開シンポジウム、2015年3月15日、東洋大学

Brown, J.A., Oikawa, M., Rose, J.P., Haight, H. M., Oikawa, H., & Geers, A.L. Choosing across cultures: Evidence for mediational mechanisms in the effects of choice complexity and culture on treatment outcomes. 16th Annual Conference of the Society for Personality and Social Psychology, 2015年2月27日, Long Beach, CA.

Oikawa, M., & Oikawa, H. Finding meaning in abstract painting: A construal level perspective. 15th Annual Conference of the Society for Personality and Social Psychology, 2014年2月13日, Austin, TX.

Jill, A. Brown, Oikawa, M., & Oikawa, H. Choosing across cultures: How choice complexity impacts treatment outcomes in Japanese and U.S. American contexts. 15th annual conference of the Society for Personality and Social Psychology, 2014年2月14日, Austin, TX.

Oikawa, M. & Oikawa, H. Emotion suppression: Effects on explicit and implicit mood. 14th Annual Conference of the Society for Personality and Social Psychology, 2013年1月17日, New Orleans, LA.

及川昌典 無意識と自由意志の感覚、日本社会心理学会第53回大会、11月17日、つくば国際会議場

及川昌典・及川晴 無意識の感情は意識的に制御できるのか？感情抑制と顕在・潜在モード、日本社会心理学会第53回大会、2012年11月18日、つくば国際会議場

及川昌典・及川晴 ふと意識に浮かぶ記憶：思考抑制と逆説的效果、日本心理学会第76回大会、2012年9月11日、専修大学

〔図書〕(計4件)

及川昌典 他 ナカニシヤ出版 心理学  
概論改訂第2版 2014、456

及川昌典 他 北大路書房 ふと浮かぶ  
記憶と思考の心理学：無意図的な心的活  
動の基礎と臨床 2014、234

及川昌典 他 有斐閣 認知心理学ハン  
ドブック 2013、438

及川昌典 他 金剛出版 モティベーシ  
ョンを学ぶ12の理論 2012、384

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

及川 昌典 (OIKAWA, Masanori)

同志社大学・心理学部・准教授

研究者番号：40580741